

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 30 年 5 月 26 日
＜第 1 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するために、東京都教育委員会が平成 16 年度に設置しました。今年度で 15 年目を迎え、これまでに約 1,800 名が修了し、多くの修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京教師養成塾の活動について広く知っていただくことを目的に発行しています。

●平成 30 年度 東京教師養成塾 入塾式

平成 30 年 4 月 3 日（火）東京都教職員研修センターにおいて、平成 30 年度東京教師養成塾入塾式を挙行了しました。都内及び近県の関係大学 33 大学の学生である第 15 期養成塾生 112 名が、これから始まる養成塾の講座や特別教育実習に大きな希望を抱き、緊張した表情で入塾式に臨みました。当日は、塾生の新たな門出を祝い、東京学芸大学 出口 利定 学長、聖徳大学大学院 金子 英孝 教授をはじめ、教師養成指定校の皆様、関係大学の御担当者等多くの方々にご参列いただきました。

東京教師養成塾の塾長である東京都教育委員会 中井 敬三 教育長は、式辞の中で「養成塾での学びを通して、児童・生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすことができるよう、教員に求められる専門性を高めてほしい。」と期待の言葉を贈りました。

また、入塾生代表として、国士舘大学 今関 光聖 塾生が、「どのようなときも、絶対に諦めないという強い気持ちを持ち、自分の可能性を信じて、全身全霊で教師への道を切り拓いていきます。」と、決意の言葉を力強く述べました。

今後、第 15 期養成塾生は、36 区市の小学校 85 校、都立特別支援学校 8 校の教師養成指定校における特別教育実習や講座、体験活動を通して、教師としての使命感や実践的な指導力、柔軟な対応力等を身に付けていきます。



－塾生代表の言葉－

●第 1 回講座

4 月 7 日（土）に、第 1 回講座として 3 つの講義・演習と班別協議を実施しました。

「特別教育実習で身に付ける実践的指導力～教師に求められる指導力～」

東京教師養成塾を担当する村上 正昭 指導主事が講義・演習を行いました。この講義・演習は、塾生として身に付けるべき資質・能力について具体的な事例を通して学び、特別教育実習に向けて具体的な課題を設定することをねらいとしています。受講する塾生の表情は希望に満ちあふれており、これから始まる特別教育実習への強い意気込みが伝わってきました。

「あなたもわたしも大切な一人 ～人権感覚を身に付ける～」

教育開発課 長友 慎吾 統括指導主事が人権教育プログラム（平成 30 年 3 月東京都教育委員会）を用いて、講義・演習を行いました。この講義は、一人一人の児童・生徒を大切にしたい教育活動を行う意義を理解するとともに、教師に求められる人権感覚について考えることをねらいとしています。人権について話し合う演習では、塾生同士で深く考えるとともに、教師としての環境づくりの大切さについて学びました。

「教員の使命と服務」

東京教師養成塾を担当する野澤 一代 統括指導主事が講義を行いました。この講義は、教育者としての責任と誇りをもち、児童・生徒や保護者、社会が寄せる信頼と期待を具体的に理解することをねらいとしています。「どのような教師になりたいか」「教師に必要な力とは」について考えるとともに、教員の職務や求められる教師像の具体的な内容について学びました。

【班別協議】

班別協議では、講義・演習で学んだことを踏まえて、学校における教師の働きや学級での人権上の配慮事項について話し合い、理解を深めました。

まとめとして、担当教授から内容や取組に関する指導が行われました。



－司会が協議を進行－



－教授からの指導－

【塾生の感想より】

- ・子供のために絶え間ない努力をすることが教師としての使命であると改めて実感することができた。
- ・教師としての使命感について考えることや、服務について再度確認することができたので、これから教師を目指すに当たり心構えができた。

● 第2回講座 「これからの東京都の特別支援教育」

4月28日(土)に、特別支援教育についての基礎的な知識や学級における児童・生徒への適切な支援の在り方について理解を深めるとともに、児童・生徒の可能性を伸ばすための具体的な方法を身に付けることをねらいとして、第2回講座を行いました。

「東京都の特別支援教育の施策等について」

専門教育向上課 田島 忍 統括指導主事が講義を行いました。この講義では、東京都の特別支援教育の施策のポイントとその具体的な内容について学びました。また、学校におけるユニバーサルデザインの授業の実践例の紹介があり、特別支援教育に関する理解を深めることができました。結びに「特別支援教育は全ての学校で行うものという認識をもち、児童・生徒一人一人の良さや可能性を伸ばすという点からも、児童・生徒理解や障害理解を進めることが必要である。」というメッセージがあり、多くの塾生が大きくなずいていました。

「小学校における特別支援教室について」

教育開発課 泉田 巧人 統括指導主事が講義を行いました。都内公立小学校で導入している特別支援教室の目的や役割の説明に加え、発達障害の特性からみる特別支援教育の必要性や配慮事項について、学校での様々な場面に沿った説明が行われました。講師からは、「発達障害のある児童一人一人の生活上や学習上の困難さを改善するためには、特別支援教室での特別な指導だけでなく、在籍学級や家庭と連携した継続的な指導が重要である。だからこそ、保護者と連携して特別支援教育の充実を目指してほしい。」との願いが伝えられました。

【塾生の感想より】

- ・特別支援教育において、児童・生徒を理解すること、障害を理解すること、一人一人のよさや可能性を見いだすことが大事であると学んだ。
- ・支援を必要とする子供たちの特性に合わせて、具体的な方策や働きかけを意識していくことが大切であると感じた。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、学校の教員、保護者、関係機関とも連携を図る必要があることを学んだ。



— 講義を受講する塾生 —

【連載シリーズ コラム①】

◆ 子供との関係を築く ◆

「深い愛情、積極的なコミュニケーション」

東京教師養成塾教授 牛島 隆文

教師養成指定校での特別教育実習が始まり、約2か月が経ちました。この間、塾生は子供と様々な場面で関わり、子供の素直さや意欲的に活動する姿に数多く出会うと同時に、どのように関わっていったらよいのか、戸惑い悩みながら特別教育実習に取り組んでいることでしょう。この時期、特に大切にしたいことは、子供との信頼関係を築くことです。それは、学校教育が子供との信頼関係を基盤として成り立つものであり、子供と教師の間関係の在り方が、子供の健全な成長と深く関わっているからでもあります。さらに、子供との信頼関係を築くことは、特別教育実習の質を高めていくことにもつながります。

そこで、以下に子供との信頼関係を築いていくために大事にしたいことを挙げてみます。

◇子供と元気に、笑顔で遊ぶ

学校生活の一つ一つの場面が、子供にとって大切な学びと成長の機会です。その一つに、休み時間があります。休み時間では、授業の中では見られないような、伸び伸びとした子供の姿に出会うことがあります。教師も子供と一緒に汗を流して元気に笑顔で遊ぶことで、それまでは分からなかった子供の姿が見えてきます。そのような機会を通して、子供一人一人のよさや持ち味を見付けてほしいと考えています。子供は、褒められたり、認められたりすることで、明るく素直に、積極的に行動するようになります。子供を受容し、深い愛情をもって、温かい励ましの言葉を掛けていくことが、子供との信頼関係の構築に大切なことです。

◇子供の言葉に心を傾けて、聴く

子供は教師に対して、常に自分を見てほしい、自分の話を聞いてほしい、また、自分の悩みや喜び、新たに発見したことなどを伝えたい、知ってほしいと願っています。子供は、真剣に話を聞いてもらえると安心し、教師への信頼感を高めます。子供とコミュニケーションを図るときには高度な技術は必要なく、子供に正対し、表情をしっかりと見て、うなずきながら子供の言葉に心を傾けて、共感して聴くことを心掛けましょう。そして、教師自らが、一人一人の子供に積極的に語り掛ける機会をもちましょう。何気ない日常会話の時間を大切にする教師の姿勢が、子供との確かな信頼関係を築いていく上で大変重要です。

子供との信頼関係を築いていくことは、塾生一人一人に身に付けさせたい実践的な指導力や柔軟な対応力を培うための大切な学びにつながります。塾生一人一人が子供への深い愛情をもって、積極的に関わり、価値ある学びを積み重ねていくことができるように、指導の充実に向けてまいります。